

# ユーラシアンホットライン

## [ 新年のご挨拶 ]

大野 遼

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく  
お願いいたします。

ユーラシアンクラブは昨年、本部機能の移転、日本人クラブからの脱皮、地域拠点型活動への移行、時代に合う活動スタイルの模索へ一歩進めるために努力しました。東京都中央区では、日本橋事務所法人登記を済ませ、12 月に入り、中央区のボランティア団体交流サロン・協働ステーション中央の利用登録申請をおこないました。5 年前から活動を始めた愛川町では、「愛川町シルクロードのまちづくり実行委員会」(9 月に愛川町シルクロードクラブと衣替え)の設立に努力し、ロシア連邦サハ共和国から和太鼓研修児童グループ 16 人を愛川町繊維産業会館での合宿と県立愛川高校での研修とその成果の発表を兼ねた「アジア・シルクロード音楽フェスティバル サハ太鼓祭り」を小中高連携の全町的催しとして実施し、演奏を聴いた多くの人に喜んでいただきました。その後、愛川町・手まり学園にウイグル人の舞踊家、演奏者ら 10 数人を招いてのシルクロード交流会と愛川町勤労祭への参加。11 月 14 日県立愛川ふれあいの村紅葉祭では、モンゴル力士によるモンゴル相撲のトーナメントと大相撲力士・八菅山を育てた柔道クラブ「愛柔会」の児童十数人への相撲ワークショップ、写真家アロハンさんが撮影した最新のモンゴル映像によるモンゴルの暮らし紹介および馬頭琴奏者ハルフさんを中心とする四人の演奏者や歌手によるモンゴル音楽ワークショップなどを開催し、モンゴル文化を普及しました。

昨年最後の催しは、68 歳から 20 年間、中央アジア最大の河川アムダリヤ北岸・北バクトリアで仏教遺跡を発掘調査してきた、加藤九柞先生の業績を顕彰しお祝いするツアーでした。催しは、加藤先生が 12 年かけて掘りあげた中央アジア最大の僧院伽藍・カラテバ遺跡の全容を見学し、アムダリヤをはさんでアフガニスタンを臨む遺跡のある丘の頂上での、パンチャラマ、木村俊介、岳人山という竹笛、篠笛、尺八のチャンピオンによる即興の演奏、伽藍中庭での即興のフュージョンと感動的な演奏でスタート。アムダリヤ北岸の仏教遺跡アイルタムで発見された楽人像のあるテルメズ考古学博物館では、特別の許可を得て、琵琶を弾く女性というアジアの音楽史を象徴する彫像の前で、アジアの時空を超えた楽器の最後の姿津軽三味線の演奏を軸とした演奏会を開催、僧院中庭でも演奏されたであろう往時の仏教空間を偲びました。テルメズ市でのコンサート、タシケント市・青年宮殿での「文化コンファレンス&フェスティバル」、サマルカンド市のホールにプハラの音楽カレッジの演奏家 9 人が友情出演するコンサートは、いずれも大成功しました。加藤九柞先生を支援するオクスサ学会、在日ウズベキスタン大使館、ウズベキスタン文化芸術フォーラム、日本国外務省、奈良・薬師寺、日本ウズベキスタン協会、トンボの目編集室、(株)トラベル世界等多数の関係者、考古学者ルトゥビラゼ氏、ツウルゲーノフ氏、そして元留学生のアザムさん、ガイラトさん、ジャンさん、そして在ウズベキスタン日本大使館の全面的な協力を得て多くの聴衆が感動する空間を演出することができました。特に、今回の事業実施に当たっては、不足する諸経費の一切を負担していただいた長年の友人である小島崇

文さん、河野真一さんの物心にわたるご援助に心から感謝申し上げます。

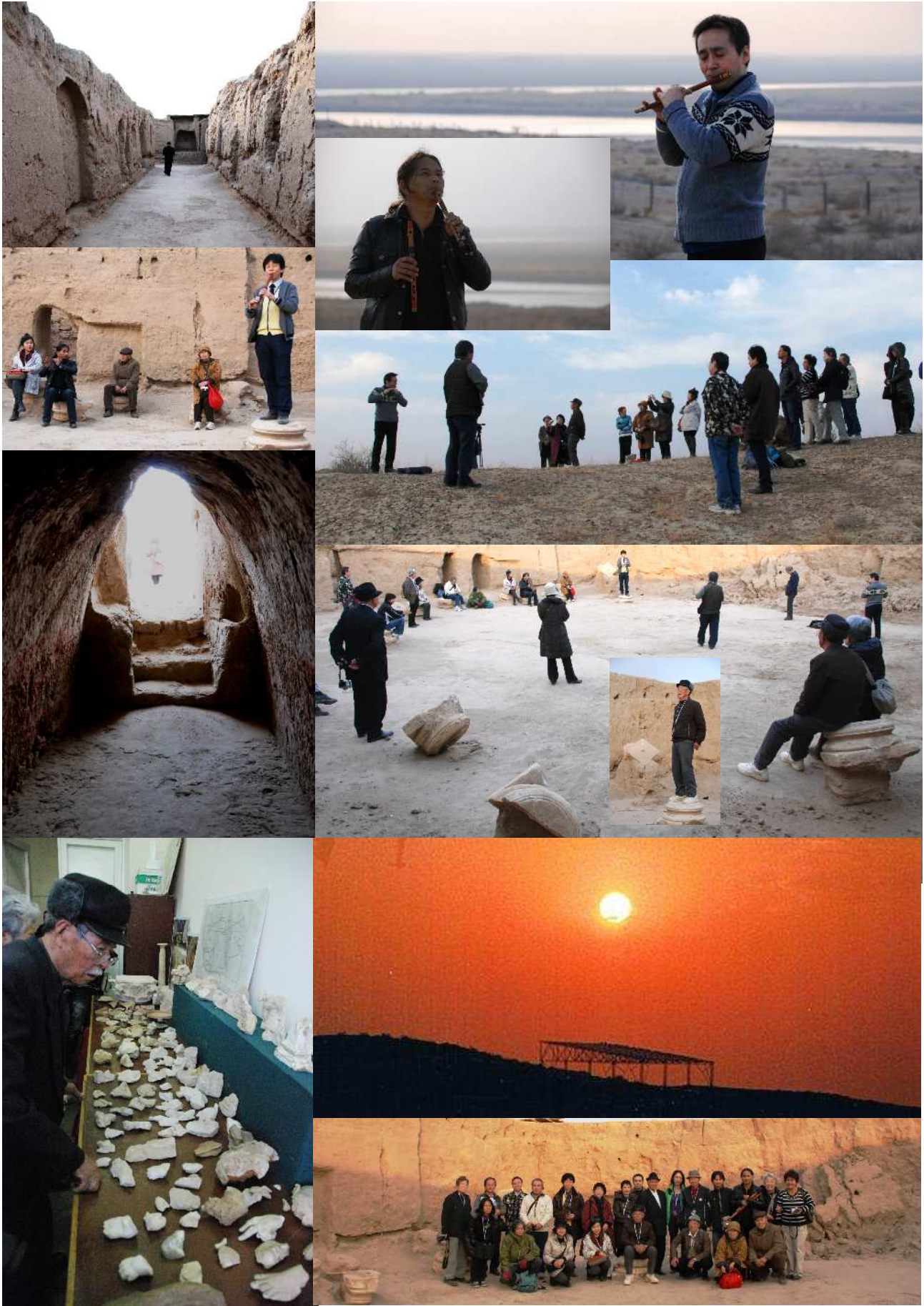
私は昨年、「アジアとつながる心のシルクロード」をテーマに活動しましたが、今年は「アジアから見える日本」をテーマに活動を展開したいと思っています。

私は、加藤先生がアジアの精神文化形成の要としてアムダリヤ北岸を重視し 20 年にわたり活動してきた意味を、壮大なカラテバ僧院伽藍遺跡を訪ね、アムダリヤを介してアフガニスタンを臨む遺跡のあるカラテバ丘頂上やテルメズ考古学博物館のアイルタム出土の楽人像前でのコンサートを通して、歴史的空間的映像としてみることでできました。タシケントの青年宮殿でも話したとおり、ササン朝時代、トルコ時代を経てイスラム・モンゴル時代やソ連社会主義時代を通り抜けてなお、現代ウズベキスタンの伝統的楽器群には、アイルタム楽人像に起源をたどれるウードやホシナイという楽器が使用され、日本ではアイルタム楽人像の「琵琶を弾く女性」を源流の一つとする時空を超えた最後の楽器として津軽三味線が存在します。アムダリヤを軸とするバクトリアで形成された大乘仏教とともに日本やアジアに広く普及した音楽文化が現代アジアの音楽文化の基層を創ったことは明らかとなりました。そして、紀元前 1200 年の昔にさかのぼるゾロアスター教の影響が、大乘仏教形成に大きな力を示したペルシャ系の人々によって、彼らの水源や水脈への信仰(アナーヒター:ナナ信仰)が仏教における観音信仰、弁才天信仰の形で入り込み、これも広くアジアに及んでいます。文化的様相の系譜はさらに古くエジプトや古代王国メディアとの交流以前の西アジアの古代史に帰するとはいえ、イスラム時代を切り抜けて時空を超えてアジアを覆うペルシャ人やペルシャ系文化と諸民族との邂逅の形が現在の日本を含むアジアの諸民族の文化の特色の一つとなっていると言えます。ここに日本とアジアの時空を超えた回廊の入口があると考えています。

これは私の今の思いですが、今年以後の「アジアから見える日本」を念頭に、今年は 4 つの活動軸を推進したいと考えています。一つは、私が居住する愛川町で、引き続き音楽を通してアジアが見える子供を育成する「アジア子ども未来プロジェクト」を推進したい。条件が整えば、昨年実施したロシア連邦サハ共和国の児童が希望する和太鼓の研修事業も実施したい。二つ目は、日本橋で、アジアの音楽史の時空を超えた最後の姿と言うべき三味線文化に焦点を当て、時空を超えた音楽のシルクロードの終着駅での音楽のまちづくりを提案するフォーラムをスタートしたい。三つ目は、ユーラシアンクラブの活動の機軸としての情報通信ネットワークをアジアの若者と連携したやり方で推進し、基礎を築きたいと思う。四つ目は、千葉県君津市のカムイミントラで 10 月 16 日開催される「第一回アジア SUMO フェスタ」を成功させて、アジアの相撲の競技を通じた交流を盛んにしたい。

私は、この二年以内に、クラブの運営を次の世代に引き継ぎたいと希望しています。本年もどうぞよろしく。

# 「アイルダム幻想 アムダリヤを渡った響き」



北クトリアム教遺跡発掘 千年 一級のミュージシャンと行く加藤九柝先生と来春の挑戦影ツアー 2010・11・24、12・1

中央アジア最大の仏教僧院伽藍建造物を掘りあげた加藤九柝先生。遺跡の保存、出土品の図録が課題。



テルメズ市で  
タシケント市で



栗原一等書記官とヌクスから来てくれたジャン君 4p紹介



ガイラト君 音楽学院ムラドヴァ学長/トゥルグノフ氏



サマルカント市で



ウズベキスタンと日本をつなぐ仏教と音楽の歴史

仏教と音楽のシルクロードを重ねて加藤先生の米寿を祝う今回の企画は、下のアイルタムの楽人像「琵琶を弾く女性」から始まった。ウズベクではウード、日本では三味線文化として今日まで引き継がれている。



ブハラから友情出演に駆けつけたイスマトフさんの演奏に感動する参加者。右奥に8人のブハラの音楽家



この特集は、ツアー参加者である菊池香苗さん、河野真一さん、岳人山さん、山本悦夫さん、木村俊介さん提供の写真で構成しました。

この秋、加藤先生の米寿の祝い「文化コンファレンス&フェスティバル」の準備のためウズベキスタン共和国カラカルバク自治共和国の首都ヌクスから駆けつけ、資料作りという裏方作業を手伝ってくれたジャン君は、元留学生でユーラシアンクラブの友人もたくさんいる誠実な青年。今のヌクスでの暮らしぶりを紹介してくれました。ジャン君は、ブログを開設しています。やさぐれた感じが好きなのか梶芽衣子の「恨み節」「修羅の花」の歌詞を地域の人に頼まれたとかで、ロシア語に訳して公開しています。  
[www.nukusejanaika.blogspot.com](http://www.nukusejanaika.blogspot.com) (文中のブラックコーヒーの話は今回タシセントで一緒に経験したことでした)。本名 ilyasov jienbay。システムエンジニア・プログラマーで下記の日本語は本人のもので、いい仕事があったらどうぞ紹介下さい。

ヌクスの現在の気候は昼と夜で、+5C~-5C 位です。雨はあまり降りません。乾燥地帯ですが裏庭にはピーマン、トマト、メロン、キュウリ、なす、イチゴ、豆などを植えています。飲み水はあまりきれいではありません。地元の人は普通に飲んでいますが、私は飲めません。ペットボトルの水を飲んでます。大変です。

家の裏庭の畑の横にヤギ小屋があって、私は今、ヌクスで兄のお店を



手伝いながら 20 匹ほどのヤギの世話をしています。4ヶ月前までは、朝の7時に餌をやって、お昼は13時に、夕食は17時と3回の餌やりだけでなく一日中

ヤギと触れ合っていました。今はお店の手伝いがある、一日触れ合う時間は、1-2時間程度です。代わりに、兄がヤギの世話をしています。(きちんとやっていませんが・・・)

ヤギには一匹ずつちゃんと名前がついています。85、ハルカバド、ピック(別名:ブーリャ)、銀座(ギンザ)、ゴンパ(別名:ゴンピ)、トンパ(別名:トンピ)カチョック(別名:バリック)、アブリカ、プロベツソ、ジョルビ、グスト、グスタ、シーガン、カスカ、リンザ(別名:マグニット、カラバイ(1))、カラバイ(2)、シガレット(別名:セリョーガ)、トハなどです。

ヤギは餌をきちんとしていれば、元気になってくれて、ヤギ乳もたくさんくれます。普通は餌を草だけにしていますが、お乳を絞るには、草だけはたりません。小麦粉のおからや綿花の油絞り後の残りなどです。ヤギは通常1年に2回位子ヤギを産みますが、2回産ませるとお乳搾り期間が短くなってしまいます。長く絞られるためには、なるべく1年に1回だけ産ませた方がよいとのこと。でなければ、ヤギの数だけが増えてしまい、餌やりは大変です。



銀座君 1号、2号

子ヤギは本当にかわいいです。本当に癒してくれます。一匹のヤギは、500ミリ前後のお乳をくれます。餌やるときは、一回たくさんの餌を与えてしまうと、ヤギがお腹いっぱいになったことに気づかず、後にお腹が膨らんで、病気になります。一回そうなると、お乳はくれなくなってしまいます。ヤギ乳は牛乳より濃いです。また健康に非常によいです。朝一、空腹状態で飲むと色々な病気に効きます。こうやって、ウズベキスタンのヌクスで、ヤギからたくさんの元気をもらって暮らしています。

ヌクスより イリヤソフ・ジャンバイ

## キルギスの少数民族（ドゥンガン人〔2〕）

中西健

多民族国家キルギスにおいてドゥンガン（東干）人はキルギス人、ウズベク人、ロシア人に次いで第4の人口を有する。中国西北部を故地とするドゥンガン人はキルギスに移住後、勤勉性をもって生活の礎を築いてきた。首都ビシケクへの野菜出荷量の6割以上を出荷すると言われる。

首都ビシケクのあるチュイ州には多くの民族が住む。ロシア人、カフカス系、ドゥンガン人、ウイグル人などがビシケク周辺の村々では混住している。ロシア人とキルギス人との関係は一般的に良いが、キルギス人と他の民族との間で小競り合いが散見される。

### イスクラ事件

2006年1月31日から2月5日にかけて、カザフスタンとの国境に程近いイスクラ村でキルギス人とドゥンガン人との間で数百人規

模の衝突が起きた。同村のゲームセンターで両民族の子どもが喧嘩したことが発端とされる。

ドゥンガン人の家屋6棟が放火され、キルギス人による投石での窓ガラス損壊243棟、破壊の程度がひどいものが80棟、2名が病院に収容されるという被害を出した。

事件が沈静化しても、イスクラ村のキルギス人はドゥンガン人5家族を同村から追放することを要求、数家族が他の村に移住するかカザフスタンに逃れることを余儀なくされた。

ドゥンガン民族協会会長のエセン・イスマイロフは、筆者による聞き取りで、政情不安定の中で起きた事件であって、民族性に起因するものではないと述べた。



写真 イスクラ事件で放火された家屋

と焼かれた大型トラック（2006年2月8日撮影）

同様に、アダハン・マドゥマロフ副首相（当時）によれば、衝突はキルギス人とドゥンガン人の「夫婦喧嘩」であり、ノウルーズ祭（春分の日）に両民族を宴会に同席させ、問題はすぐに解決したという。

筆者が事件直後にイスクラ村に訪れた際、治安機関がパトロールする中、キルギス人の外出は禁止されていた。放火された家屋は一際立派な邸宅だったが、イスクラ村のほとんどのドゥンガン人の家にカマス（ロシア製の大型トラック）が置かれていることから、キルギス人に比べ裕福であることが分かる。事件から1ヶ月後に再度イスクラ入りした時、ドゥンガン人の家にガソリンを安く売ってくれるように頼み断られるキルギス人を見かけた。

先述したドゥンガン民族協会会長が言うように、イスクラ事件は、2005年3月の政変以降続いた政情不安定と折しも国会の場で治安機関の不祥事が追及されていた状況で起きた。だが、同村におけるキルギス人とドゥンガン人の不和は5年にわたるとい話も聞く。小競り合いが起こる度にカザフスタンとの国境が閉ざされるとい。チュイ川を挟んだカザフスタン側にも多くのドゥンガン人が居住す



写真 イスクラ村のドゥンガン人

（2006年2月8日撮影）

る。

### 「ドゥンガニスタン」

イスクラ村の近くに、カザフスタン国境のチュイ川に架かる「ドゥンラロフ橋」がある。有力ビジネスマンで国会議員であったユヌス・ドゥンラノフ（1943～1995年）の名に因む橋であり、周辺にはガソリンスタンドが立ち並び、ドゥンラロフは、この橋を架けることにより同朋であるドゥンガン人を経済的に潤した。



写真 ドゥンラロフ橋（2006年2月8日撮影）

ドゥンラロフ橋近くの国境警備隊員は、橋の向こうは「ドゥンガニスタン（ドゥンガン人の国）」だと揶揄した。ドゥンラロフ橋の対

岸のカザフスタン領マサンチ村の大半がドゥンガン人だ。

キルギスのドゥンガン人はカザフスタン側のドゥンガン人と相互依存関係にある。石油を安く輸入し、農産物売。物価の安いキルギスへ移住するカザフスタンのドゥンガン人もいる。国境があることで生まれる利益を利用したケースである

ドゥンラロフ橋の対岸にあるマサンチ村はドゥンガン人の中心地である。そのすぐ背後には、2500メートル超のチュイ・イリ・アラタウ山脈（カザフスタン領）が聳える。同山脈を越えてカザフスタンのデゲレス～マサンチ路に至る行程を試みたことがある。四輪駆動車もてこずる悪路であるが、頂上まで水が豊富で牧畜に適しており、多くの天幕が張られていた。頂上付近は、キルギスからの不法入国や密輸を取り締まるカザフスタンの国境警備隊が監視にあたり、国境警備隊員の監視の下で途中まで下山することになった。ドゥンガン人は、山脈にも拠点築いており、カザフ人の牧民に野菜や燃料を売っていた。

確実に言えることは、こうしたネットワークを活かして生計をなすドゥンガン人は、その生来の勤勉性とも相俟って、キルギス人よ

りも裕福であることだ。

イスラ事件は 1990 年のオシュ事件以来の民族間衝突として取り沙汰された。

ソ連時代、民族問題は解決されたとして繰り返し表明されてきた。ペレストロイカ期、バルト三国やカフカスで民族意識が高揚し、ソ連崩壊の一因となった。

キルギスでも独立以来、キルギス民族復興の動きは見られた。政変が起きるたびにキルギス民族主義は頭をもたげる。だが、民族を超えた繋がりが残っているのも確かである。民族間交流語としてのロシア語の地位は保たれているし、民族協和の理念は現在でも生きている。排他的な民族主義は普段は見られない。少数民族も消極的ではあるが「キルギス国民」意識を持っている。キルギスでは様々な問題を抱えつつも国家・国民としての緩やかな一体性は見られ、着実に国家建設が進んでいる。ただ、「キルギス国民」というものが形成されたというのは早計かもしれない。今のところ、各民族はそれぞれのネットワークを活かして生活しており民族間で競合も見られ時に対立する。

## メディア・ユーラシア情報

### <<西アジア>>

#### ヒッタイト時代の精巧ガラス、トルコで出土

トルコ・アナトリア高原のヒッタイト帝国時代（紀元前 1400～1200 年頃）のビュクリュカレ遺跡を発掘調査している中近東文化センター（東京都三鷹市）は、当時ガラス製作の先端地域だったメソポタミアに匹敵する技術で作られたガラス容器を発見した。

容器は、紀元前 14 世紀の宮殿とみられる建物の床の上で見つかった。直径約 4 センチの細長い首と、同約 10 センチの洋梨形の胴部を持つつぼで、高さ約 15 センチ（全長は推定約 25 センチ）不

透明な白地に、白や濃紺の細いガラスひもを、ねじったり、波形にしたりして張り付けた、精巧な装飾が施されている。

ガラス容器の生産は、紀元前 16 世紀にメソポタミアで始まったとされる。ヒッタイト時代のアナトリアでは、ガラスの小片が数点見つかるだけだった。

（2010 年 12 月 25 日 14 時 39 分読売新聞）

<http://www.yomiuri.co.jp/national/culture/news/20101225-OYT1T00422.htm> より

### <<中央アジア>>

#### 「輝く男の子」追う再生の旅 津島佑子「黄金の夢の歌」

朝日新聞 2010 年 12 月 19 日

作家の津島佑子さんが新作『黄金の夢の歌』講談社を刊行した。近年、アイヌ口承文芸の伝訳に取り組むなど、文字ではなく歌として伝えられてきた世界の豊かさを紹介してきた津島さんは、そうした歌を「夢の歌」と呼ぶ。「夢の歌」は、民族としてだけでなく「誰の体にもある」と言う。新作はキルギスの英雄叙事詩「マナス」の歌に魅せられ、中央アジアを旅した魂の記録でもある。

マナスはキルギスに伝わる叙事詩の主人公の男の子。成長して、外敵から民族を守るリーダーとなる。津島さんは、アイヌの叙事詩「ユカラ」の男の子ポイヤウンペと共通するものを感じた。共に他民族からの侵略にさらされてきた歴史から生まれた英雄。「でも、どうしようもないはずらっ子。その輝きが魅力的。物語の原型として男の子がいる意味をずっと探りたいと思っていた」と言う。

作者の分身でもある小説の中の「あなた」に、マナスともポイヤウンペともいえる男の子が何度もささやきかけてくる。さらにはマケドニアから中央アジアにまで遠征したアレクサンドロスの少年時代の声も聞こえてくる。

「暴れん坊の男の子には、がちがちに固められた人間社会を破っ

て、新しいエネルギーに満ちた世界を現出させてほしいという期待がある。アレクサンドロスが人類の夢を体現した、ひとつの像。繰り返される戦争に嫌気がさし、どうしたら平和になるかを考えてきた歴史の中で、希望が託された。彼はその使命感を持っていたのではないか」

津島さんは、念願のマナスの歌をキルギスの首都ビシュケクのユネスコ事務所で聴く。殺風景な部屋だったが「楽器も持たず、身ぶりだけで歌うリズムにだんだんしびれてきて感動した。はるか昔、人間は小鳥のさえずりや動物の咆吼（ほうこう）をまねし、意味をくみ取ろうとした。大自然からのメッセージを感じ、人間からも送り返す。そのやりとりが歌の起源なのでは」（以下略）

（都築和人）

[http://www.asahi.com/culture/news\\_culture/TKY201012170393.html](http://www.asahi.com/culture/news_culture/TKY201012170393.html) より

#### キルギス新首相を承認 米軍基地、14 年まで存続へ

産経ニュース 2010.12.18

4 月に当時のバキエフ大統領を追い落とす政変が起きた中央アジア・キルギスで 17 日、政変を主導した社会民主党を含む 3 党が連立政権の樹立で合意し、議会が同党のアルマズベク・アタムバエフ党首（54）の首相指名を承認した。

アタムバエフ氏は議会で、米国がアフガニスタン作戦の輸送拠点としてキルギスに維持するマナス米空軍基地の使用契約について、2014 年までは一方的な変更はできず、毎年、自動延長する合意になっていることを明らかにし、合意を順守していく考えを示した。

同氏は一部の国の首脳には「国際的な義務に反することはできない」と伝えたと述べ、同基地の閉鎖を働き掛けていたロシアに理解を求めたことを示唆した。また最初の外遊先はロシアにすると表明した。(共同)

<http://sankei.jp.msn.com/world/america/101218/amr1012182048011-n1.htm> より

**UNHCR、冬を目前にキルギスでシェルター建設完了する**  
国連難民高等弁務官事務所ニュース 2010 年 12 月 3 日

© UNHCR/M.Erjigitov  
南キルギスに建設された家  
UNHCR キルギス、ピシュケク



(12 月 3 日) 発:  
UNHCR は 6 月に起きた暴動の結果、焼き討ちなどで家が損壊したキルギス南部の 1 万 3400 人の仮設住宅を建てる住宅再建プログラムを完了した。

本格的な冬が訪れる前に住居を提供することは大きな目標となっていた。6 月の暴動で約 400 人が命を落とし、37 万 5000 人が避難を余儀なくされ、当時多くが隣国ウズベキスタンに逃れた。

「シェルターも完成し、次の段階として和解、特に法治、人権行使の回復に取り組む時期に来ている。キルギスのこの地域的情勢はいまだに不安定だ」と UNHCR 報道官は述べた。

破壊からわずか 100 日間で 2000 戸の家屋が補修、もしくは再建された。このめざましい住宅再建の実現には、UNHCR、パートナー NGO、キルギス政府が共に連携し、日本政府などのドナー国からの迅速な資金援助があったことが背景にある。

UNHCR は建設された住居の 5 分の 4 を担当した。住居が完成し、多くの人がそこでの新たな生活を始めた今もなお、UNHCR は避難の際、焼かれるなどして紛失した家屋、土地、所有権などの公的書類の復元も継続して支援する。

冬を前に、新たな住居に移った人は一様に安堵を表していた。キルギス南部ではすでに、夜間の最低気温が零度を下回る日もある。本格的な冬を前に、屋根のついた家屋で生活することができるようになるとは想像できなかったと、数か月前まで、国を離れようとする人たちからの感嘆の声もあがった。

仮設住宅は外気から身を守ると同時に損壊した住宅の敷地内の基礎を活かしながら建てられ、専門家の指導を受けながら、自らの手で建設にかかわった住民も多い。このプロジェクト実施にあたり、UNHCR キルギス事業予算 2300 万米ドルのうち、900 万米ドルかけて建設された。

2011 年はキルギスのみで 1140 万米ドルの予算が必要になると計画されている。その大半は基本的権利の回復、基本的な社会サービスの整備、各種書類の復元、そして、生計を建て直すためのプロジェクトに使われる予定だ。

住宅再建の現場以外にも、日本の民間企業、株式会社ユニクロの「全商品リサイクル活動」として店頭で集められた衣類が、キルギス南部の多くの避難民に配布された。UNHCR はドナー政府、開発機関、民間企業、NGO などのパートナーとの連携を強化し、より包括的な支援、保護を行うべく取り組んでいる。

国連難民高等弁務官事務所ニュースより  
<http://www.unhcr.or.jp/html/2010/12/ws101203.html>

**民間人死者 20% 増、国連報告 アフガニスタン**  
(CNN) 2010.12.25 Sat

国連は 24 日、今年のアフガニスタン情勢に触れ、戦闘などに巻き込まれた民間人の死者が昨年比で 20% 増、反政府武装勢力による攻撃件数が 66% 増を記録したとの報告書を発表した。今年 1 ~ 10 月までの期間が対象で、民間人の犠牲者数は 2400 人以上、負傷者は 3800 人以上。

欧米主導の多国籍軍の作戦に伴う民間人の死者は 18% 減だったが、イスラム強硬派タリバーンなど反政府武装勢力の攻撃に伴う犠牲者数は 25% 増となった。死者 4 人のうち 3 人以上は反政府武装勢力の攻撃に巻き込まれたものだった。

報告書によると、民間人や警察を標的にした攻撃件数は今年 8 月にかつてない高水準を記録、1 週間に平均 3 件の自爆テロが発生する事態ともなっていた。援助団体スタッフの拉致被害も目立ち、6 月から 10 月末までの間に計 134 件が起きた。大半は即座に解放されたが、アフガン人スタッフ 1 人が殺害される事件もあった。また、英国人の女性スタッフが米軍特殊部隊が行った救出作戦で手りゅう弾攻撃を受け死亡していた。

北大西洋条約機構 (NATO) 主導の国際治安支援部隊 (ISAF) の攻撃による民間人の犠牲者は減ったが誤爆などは相変わらず起き、2 月には ISAF の空爆で住民 23 人が死亡する事件があり、アフガン国民の反発を招いた。

今回の国連報告書は 12 月 10 日にまとめられたもので、潘基文 (潘・ギムン) 国連事務総長に提出された。

<http://www.cnn.co.jp/world/30001350.html> より

**<<東アジア>>**

**ウラジオストク航空：ロシア極東 2 路線、冬季再開協定 目標搭乗率を 7 割に / 新潟**

ロシア・ウラジオストク航空の新潟 - ウラジオストク、ハバロフスク両都市間を結ぶ 2 路線の冬季運航再開について、県と新潟市、同航空は 27 日、財政支援の詳細を定めた協定書を締結した。利用者の増加を目指して、ウラジオストク線で 69%、ハバロフスク線で 67% との目標搭乗率を設定し、それを下回った場合、差額相当分を県と市が同航空に支払う。

ハバロフスク線は 29 日 ~ 11 年 3 月 23 日の毎週水曜に計 13 往復、ウラジオストク線は 11 年 1 月 11 日 ~ 3 月 22 日の毎週火曜に計 11 往復を運航する。県と市は財政支援に計 1 億円の予算を計上したが、1 便 (片道) 当たりの支払いは 200 万円を上限とする。

一方、県と市、県内経済界はロシア側に 2 路線の利用促進を働きかけるため、それぞれの運航再開日に両都市へ訪問団を派遣する。

【小川直樹】

<http://mainichi.jp/area/niigata/news/20101228ddk15020007000c.html> より

**ノーベル賞：劉氏平和賞授賞式 75 年ぶり「空席」 本人・親族不在**

言論の自由を押し殺すことは人間らしさの息の根を止めることだ

【オスロ樋口直樹】中国で収監されている民主活動家、劉曉波(りゅうぎょうは)氏(54)へのノーベル平和賞授賞式が10日、ノルウェーのオスロ市庁舎で開かれた。北京で自宅軟禁下にある妻劉霞(りゅうか)さんも式典に参加できず、金メダルなどの授与は見送られた。受賞者と親族が不在なのは、1935年受賞者でナチス政権の収容所にいたドイツ人平和活動家、カール・フォン・オシエツキー氏以来75年ぶり。

授賞式会場の演壇脇には、中国・遼寧省の刑務所で服役している劉氏の顔写真が掲げられた。ノーベル賞委員会のヤーグラン委員長の際には劉氏の椅子も用意され、メダルと証書が置かれた。委員長は「劉氏は市民の権利を行使しただけ。彼は釈放されなければならない」と述べるなど、中国政府に強烈なメッセージを送った。

劉氏は、08年12月に発表された中国の民主化を求める宣言文「08憲章」の起案を主導。今年2月、国家政権転覆扇動罪で懲役11年の刑が確定した。

委員長に続き、ノルウェーを代表する女優リブ・ウルマンさんが劉氏に代わり、09年12月の裁判で劉氏が陳述した「私に敵はいない」と題する文章を読み上げた。劉氏はこの中で「言論の自由を押し殺すことは、人間らしさの息の根を止めることだ」と訴えていた。

授賞式には65カ国が招待されたが、当日まで出欠を明らかにしない国もあり、平和賞委員会も把握にてこずる状況だった。最終的に欧米を中心に48カ国が出席したものの、中国やロシアなど17

カ国が欠席する異例の事態となった。中国は、各国政府に授賞式への出席を控えるよう圧力をかけてきた。

一方、式典には、89年の天安門事件につながる民主化要求運動を指導した方励之氏ら在外民主活動家が参加。劉霞さんは当初、授賞式の招待者リストを作成したが、多くが当局の監視下に置かれるなどしたため、在外者中心の参加となった。

**「中国反発」「内政干渉だ」**

【北京・成沢健一】中国外務省の姜瑜副報道局長は10日、授賞式を受けて「いかなる国や人もノーベル平和賞を利用して中国の内政に干渉し、司法の主権を侵害することに断固反対する」との談話を発表した。

**米大統領声明「早く釈放を」**

【北米総局】ロイター通信によると、オバマ米大統領は10日、声明を発表し、劉曉波氏と妻・劉霞さんが授賞式に出席できなかったことについて「遺憾」と述べ民主化を進めるよう中国に促した。

大統領は「彼の価値観は普遍的でその闘いは平和的だ。できるだけ早く釈放されるべきだ」と述べた。

=====

**劉曉波(りゅう・ぎょうは)氏の略歴**

1955年、中国吉林省生まれ。北京師範大講師だった88年に渡米し、民主派の在米中国人組織「中国民主団結連盟」のアピール「中国大学生に告げる公開書簡」の起草に加わった。89年4月、中国の民主化運動を知って帰国。天安門広場でハンストを行うなど一連の運動に加わり、同年6月の天安門事件後に拘束された。事件後も国内で民主化を求め続け、90年以降、断続的に身柄を拘束された。現在は遼寧省の刑務所で服役している。

毎日新聞 2010 年 12 月 11 日 東京朝刊

<http://mainichi.jp/select/world/news/20101211ddm001040006000c.html> より

**2011年2月8日、愛川町菅原小学校、高峰小学校、半原小学校で音楽鑑賞教室実施。**

**モンゴル馬頭琴演奏者ライ・ハスローさんとネパールの竹笛バンスリ演奏者パンチャラマさんが子供たちに最高の演奏を披露し、児童の朗読「スーホの白い馬」やリコーダー演奏とコラボを実施します。父兄の参加も検討中。**

ユーラシアンクラブ・愛川サライの運営スタッフを募集します。アジア・シルクロードの諸民族の方々との交流を通して、アジアを視野に国家民族宗教を超えた理解親睦協力を促進し、諸民族の共生、自然との共生を模索して活動します。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：大野 遼  
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5371-5548  
支部 愛川サライ 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 -  
1TEL/FAX：046-285-4895 E-MAIL：[paf02266@nifty.ne.jp](mailto:paf02266@nifty.ne.jp) 郵便振替：  
00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振り込の場合：ゆうちょ銀行0  
一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ サポート会費、ご寄  
付はこちらへ。会費は年間一口6,000円、一口以上のご協力をお願い申  
上げます。

<http://eurasianclub.cocolog-nifty.com/>

2011 01 01 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：新年あけましておめでとうございます。昨年は新ユーラシアンクラブの活動のための準備期間でした。今年こそ将来につながる活動の基礎作りに取り組みます。そしてクラブの活動を次の世代に引き渡せるようになることを期待する。私には、仏教僧院伽藍カラテバ遺跡の頂上で、パンチャラマ、木村俊介、岳人山の素晴らしい演奏を聴きながら、アムダリヤをはさんで見えたアフガニスタンが印象深く残っています。今は不安定な状態が続いていますが、クシャン朝の昔、アジアの交流の要で形成された、人々を助け、救済したいと誕生した信仰と音楽。アムダリヤに潜む水と川、水源と水脈への信仰も日本までやってきた。現代人がもう一度省みるべき記憶が眠る川。(お)